

	発行者 書名	東京書籍株式会社 新編 新しい社会	教育出版株式会社 小学社会
（ア） 教科・種目に共通な観点	①編修の趣旨と工夫 （7）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①良い。 ①「まなび方コーナー」に資料の読み取り方や調べたことのまとめ方などの手引きが示されている。体験的に学ぶことで、理解を深めることができる。「ことば」の解説により、他の知識と関連づけていくことができる。 ②学習問題に対して、調べることや調べ方が併記されており、追究していく形で構成されているため、調べ学習やまとめがしやすい。学習を積み上げていくことで思考力・判断力・表現力等を育成することを考慮している。 ③単元終末の「まとめる」で、意見文やポスター、新聞等でのまとめ方を提案している。また、まとめたことから「生かす」「広げる」を通して、発展的に学習が進められるようになっている。	①良い。 ①単元の中に「キーワード」を配置している。本文で説明した後、まとめて「キーワード」を再掲し、これを用いてまとめることで、理解が深められるようにしている。 ②各小単元の「まとめる」ページでは、まとめる、発表する、話し合うなどの多様な対話的活動の例を紹介することで、思考力・判断力・表現力等が育成できるように工夫されている。 ③「つなげる」ページでは、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする意識を高める学習活動が例示されている。
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・地域学習では地域の特色を十分捉えたつくりになっている。	・地域学習では地域の特色を十分捉えたつくりになっている。 ②4年「わたしたちの県のまちづくり」箱根寄木細工の技術を受けつぐ人々（P172～173）
	（ウ）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①小単元毎に「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」の流れで課題解決的な学習になっている。 ②教科関連マークが設定されている。また「広げる」の中で他教科との関連が見られる。 ③本文中の太字や難しい語句を「ことば」として取り上げ、その意味を丁寧に説明している。「まとめる」ではこの「ことば」を一覧にし、学習活動のヒントになるような工夫がなされている。 ④各学年で取り扱いがある。 ⑤写真や図を効果的に用いて、実際に調べたり見学したりする興味ももてるような工夫がなされている。「まなび方コーナー」があり、見学の仕方や調べ方について適宜説明がされている。 ⑥各学年の冒頭に、前年度で学習した内容、巻末に当該学年のまとめが記載されている。6年は、歴史編と政治・国際編に分冊されており、中学校への円滑な接続が期待できる。 ⑦学習場面に応じて、個別でも協働でも活用できる多様なデジタルコンテンツを収載している。 ⑧読みやすい教科書体とUDフォントを採用している。また、カラーバリアフリーに配慮した作りとなっている。 ○小単元毎に「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」の流れで構成されている。学び方や記号の形、色等を揃えることで、児童が学習の流れを理解しやすい。会話形式でヒントが示され、考える際の助けとなっている。また、人気キャラクターを登場させることで、児童は親近感をもちやすい。	①「まとめる」ページでは、文章にまとめる、発表する、話し合うなど、活動の多様な例を紹介することで、主体的で対話的な学びが促されるように配慮されている。 ②「他の教科とのかかわり」の項目が設定されている。 ③「キーワード」が設定されており、本文中に説明がなされている。また「まとめる」で「キーワード」の一覧が示されている。 ④各学年で取り扱いがある。 ⑤写真や図を効果的に用いて、実際に調べたり見学したりする興味ももてるような工夫がなされている。3年の巻末に「社会科ガイド」がついており、見学の仕方や調べ方を詳細に記載している。 ⑥「前の学年をふり返ろう」や「〇年生の学習をふり返ろう」のページで、学年間を意識した構成になっている。 ⑦「まなびリンク」といった独自のウェブサイトを設け、紙面に印刷された二次元コードから、学習に役立つ情報をウェブサイトで見ることができる。また、ICT機器の多様な活用例を写真やイラスト、動画などで紹介している。 ⑧UDフォントの採用や色覚等の特性を踏まえた配色やレイアウト等により学びやすい構成や表記となっている。本文の情報を抑え、必要に応じてそれ以外の資料を用いることができるようにしている。 ○学び方の構成を常に揃えることで、児童が学習の流れを理解しやすい。教科書に登場する児童の会話形式で展開されることが複数あり、児童の理解を促している。
	（エ）分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①良い。5・6年については分冊となっている。 ②折りたたみのページでは、大きな図表から読み取りや比較ができるよう工夫されている。 ③写真・イラスト等の資料に番号がふられており、教師が示しやすく、児童も探しやすい。またカラーバリアフリーに配慮している。	①良い。 ②折りたたみのページが複数あり、児童の理解の手助けとなっている。 ③写真・イラスト等の資料にカタカナがふられ、カタカナの色・字体を周囲と変えることで目立たせている。折り返しの多い文章は文節で改行して読みやすくなっている。また、本文と資料を明確に区分したり、整理・パターン化したりしたレイアウトでデザインすることで、視認性がより高まるように配慮されている。
（イ） 教科・種目別の観点	①社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。	①重要なキーワードを「ことば」として明示し、学習内容の確実な習得に役立てられるようにしている。 ①随所に「まなび方コーナー」が設けられており、学習技能を系統的に習得できるようにしている。 ①巻末に学年の学びを振り返る特設ページを設け、どのような方法を用いて学習したか振り返ることができるようになっている。	①各単元の最後が学習問題を踏まえた「まとめる」となっており、「キーワード」や学年によって「まとめ」の例等を記載している。中学年では「まとめ」を表・図で示し、知識を整理している。また、ノートのまとめ方が例示されており、児童が参考にできるようになっている。高学年では「まとめ」に記述や穴埋めを採用し、知識等を習得させる工夫をしている。 ①「学びの手引き」の活用により、グラフの読み方や表現の仕方が容易になり、調べ方・まとめ方等の技能が身に付きやすい。
	②社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。	②見開きの適所に「見方・考え方」の囲みを提示している。「時間」「空間」「相互関係」の3つの視点と方法ごとにイラストを変え、どのような見方・考え方を働かせればよいかが明確にわかるようになっている。 ②「調べる・まとめる」の場面では、児童が見落としがちな視点を示している。 ②「いかす」では関連資料や新たな視点を示し、視野を広げるような工夫をしている。	②様々な立場の人や複数の児童の意見を伝える場面が設定されており、複数の視点で物事を捉えることができる。 ②中学年では「つなげる」の場面で話し合い形式を複数取っており、様々な立場の人の考えを整理できるようになっている。他の人の考えと自分の考えを調整する場面もある。 ②学習活動の場面では、性差や障がいの有無などに関わらず、多様な子どもが互いに協力しあいながら取り組む様子を描写している。
	③学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	③「つかむ」「調べる」「まとめる」「生かす」という学習のサイクルが全学年を通して一貫しており、児童がどのように学びを進めていけばよいかイメージしやすい。「ひろげる」のコーナーが発展的ではあるが、主体的な学びや、選択での学び等を保障している。	③3年の冒頭、児童の関心を踏まえ主体的に学ぶことを推奨するようなつくりになっている。それ以降も児童の思考の流れを踏まえ、選択式で追究するスタイルが設定されている。 ③「次につなげよう」を見開きページごとに掲載し、本時から次時へと学習をつなげる視点を示すことで、小単元を通して課題探究に一貫性が保たれるように配慮されている。

	発行者	日本文教出版株式会社	
	書名	小学社会	
（ア） 教科・種目 に共通な 観点	①編修の趣旨と工夫	①良い。	
	（フ）教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 教育基本法（第 1 条、第 2 条）及び学校教育法（第 30 条 2 項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の 3 つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「学び方・調べ方コーナー」に資料の読み取り方や調べたことのまとめ方の手引きが示されている。体験的に学ぶことで、理解を深める工夫がなされている。「むずかしい言葉」の解説により、他の知識と結びつけて考えることができる。 ②友達が分かったことや疑問に思ったことが書かれており、読んだ児童が、調べたり、考えたりするきっかけを作ったり、自分の考えと比較したりすることができるようになっている。 ③各単元での課題解決に取り組む意識や興味・関心をもたせ、児童が SDGs の達成を自分のこととして捉え、行動できるきっかけとなる教材を豊富に掲載している。	
	（イ）市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・地域学習では地域の特色を十分捉えたつくりになっている。 ①4年「村の立て直しにつくす」(P152～155) 二宮金次郎	
	（ウ）内容と構成 ○小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ○児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①全学年にわたって、児童一人一人が主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、学習課題を追究・解決する活動の充実が図られている。 ②生活科や国語科等との連携が各学年で図られている。 ③「キーワード」が設定され、平易な言葉で分かりやすく説明している。太字やキーワードについては、まとめの話し合いの例で触れられていることがある。 ④各学年で取り扱いがある。 ⑤写真や図を効果的に用いて、実際に調べたり見学したりする興味をもてるような工夫がなされている。「学び方・調べ方コーナー」では、調べ方について分かりやすく説明をしている。また、二次元コードによって詳しく説明されている。 ⑥当該学年で学習した内容の振り返りが設定されており、さらに次の学年でどのようなことを学習するのか見通すことができるようになっている。また6年の巻末では中学校への連携が図れる工夫がなされている。 ⑦豊富で多彩なデジタルコンテンツがあり、それに接続する二次元コードが充実している。 ⑧カラーユニバーサルデザインへの配慮を行っている。「むずかしい言葉」を平易な言葉で説明しており、語句で戸惑う児童の大きな支援となっている。 ○学び方の構成を揃えることで、児童が学習の流れを理解しやすい。また登場する児童の会話形式でヒントが示され、考える際の手助けとなっている。	
	（エ）分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①良い。 ②本文に対応して児童が書いた「見学メモ」や「○○さんのノート」など、調べ方や調べたことの整理の仕方が例示されており、学習の流れが理解しやすい表現となっている。 ③全体を通して、導入ページに興味や関心がわく写真やイラストを中心に載せている。また、大きな判型が採用され、迫力のあるページ構成となっている。	
（イ） 教科・種目 別の観点	①社会的事象に関する基礎的な知識や技能などを習得させるための工夫や配慮がなされているか。	①「やってみようコーナー」では、知識や学習技能を確実に習得できるよう、学習や生活の基盤となる知識を繰り返し使ったり、地図帳で調べたり、作業をしたりすること促している。 ①「学び方・調べ方コーナー」が「見る・調べる」「読み取る」「表現する」の項目毎にまとめられていて、技能が身に付けやすくなるような配慮がされている。	
	②社会的事象について児童が多面的・多角的に考えられるような工夫や配慮がなされているか。	②「見方・考え方コーナー」では、ものごとを見たり、考えたりする時の視点が提示してあり、考えやすくなっている。 ②新設された「考えよう！SDGsコーナー」では、現代的な諸課題に対して、複数の目標から多角的に捉え、考えることができるように工夫されている。また、4年間で1から17までの全ての目標を取り扱っており、各学年の発達の段階に合わせて、適切にコーナーが配置されている。	
	③学習の問題を追究・解決する活動の充実を図るための工夫や配慮がなされているか。	③「学習問題」のほかに「さらに考えたい問題」を設定・記述しており、問題をより深く追究していくための工夫がされている。全体として学びを生かすところに重点が置かれ、自分の生活とのつながりを感じさせることで主体的な学びを引き出そうとしている。 ③各ページの下部に、どのような能力をつけることができるかをインデックスで示している。 ③学習展開に沿って、生き生きと探究活動に取り組む児童の姿などが、写真資料として載せられており、レイアウトに工夫を凝らした掲載がなされている。	